

思い出構築閲覧システム【yourStory】の評価

橋本克哉 仲谷善雄
立命館大学大学院 理工学研究科

キーワード：知識表現 認知情報処理 思い出工学

1. はじめに

近年、様々な形態の電子機器や情報サービスが次々に登場し、私達の生活に影響を与えている。そして、思い出保存のデジタル化、写真や日記、動画を利用したサービスの多様化は特に著しい。いま、思い出をコンピュータで取り扱う為の環境は既に整い、多くの人が電子データとして思い出を所有していると言える。しかし、これらはどれも断片的なデータであり、特定の時期や出来事といったピンポイントの思い出を想起させるものである(日常記録型)。そこで筆者らは、学校やサークルといったコミュニティの情報をベースに自伝的記憶を扱うことで個人のライフストーリーを効果的に構築して表現する yourStory というシステムを考案し、開発を進めてきた^[1](自伝記作成型)。

本論文では、この yourStory の評価結果及び、yourStory を利用した思い出コミュニケーション実験の結果について述べ、さらに今後の思い出工学研究に向けて、思い出システム(思い出保存のデジタル化)が向かうべき方向性を示したいと思う。

2. yourStory の概要

本論文では、yourStory でライフストーリーを構築する手順やシステムの詳細な仕様については、スペースの都合上で割愛させていただく。しかし、システムに対するイメージを持っていただくために、yourStory のシステム認知モデル(図 1)と yourStory の実行時の画面例を 2 つ(図 2 と図 3)示しておくことにする。

yourStory では、人が過去のある特定の時期を思い浮かべる際、当時の自分の環境を無意識的にイメージしているという認知的特性を考慮し、学校やサークルといったコミュニティの情報で当時の自分の環境を表現し、ライフストーリーを構築していく(図 1 参照)。また、コミュニティへの所属はある程度の期間続くものなので、コミュニティ情報をベースにしてライフストーリーを表現すれば、人の自伝的記憶が幾つかの時代によって大きく体制化されているという認知的特性さえも考慮できるメリットがある。

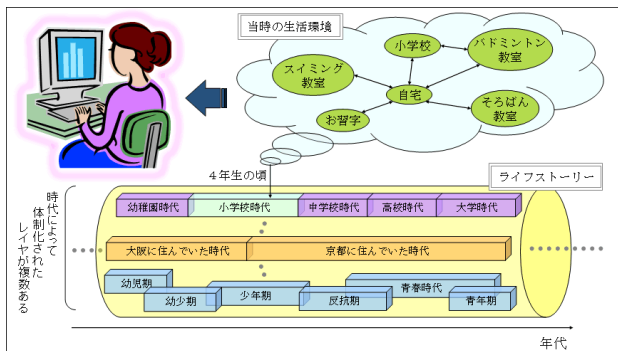


図 1. yourStory のシステム認知モデル



図 2. yourStory で表示されるライフストーリー



図 3. yourStory で表示されるコミュニティの思い出

3. yourStory のシステム評価

本システムは、個人の自伝的記憶を計算機上で表現するためのシステムであり、『思い出情報の容易な構築』と『思い出情報の他者への伝達を容易にすること』を目標としている。

ここでは、実際にシステムを使ってもらった利用者からのフィードバックによって、システムの目標到達レベルを評価した結果について述べる。また、この結果から、本研究で提案している思い出の構築表現モデルについて考察し、システムのインタフェースで改善すべき点なども考察する。

3.1. 評価方法

(システム利用者の条件)

- ◎ パソコンを使い慣れている人であること

(評価項目)

- ① ライフストーリー構築にかかる労力の少なさ
- ② 構築したライフストーリーに対する満足度
- ③ システムの使いやすさ

3.2. 評価の結果

男性 3 名、女性 4 名の計 7 名(年齢層: 20 代~60 代)に上記の方法で評価をしてもらい、以下の表 1 のような結果を得た。

表 1. システム評価の結果

	評価(詳細は含まず)				
	5	4	3	2	1
労力の少なさ	0人	2人	2人	2人	1人
満足度	2人	2人	2人	1人	0人
使いやすさ	1人	4人	2人	0人	0人

Evaluation of Constructing Personal Lifestory and Browsing System【yourStory】.

Katsuya Hashimoto, Yoshio Nakatani: Graduate School of Science and Engineering, Ritsumeikan University.

3.3. 評価結果の考察

『ライフストーリーの構築にかかる労力』については、そもそも人の自伝的記憶の容量が絶対的に大きいことを考えると、良い評価を得られないのは当然ともいえる。しかし、システムを利用せずに自分で自伝記を書くことと比較した場合、労力を軽減できているという評価をしてもらうことができた。また、『構築したライフストーリーの満足度』と『システムの使いやすさ』の評価は良い側へ傾いており、本システムの思い出構築モデルの有効性を示せた。

その一方で、システムに登録できる媒体が写真だけであるという点や、どれかのコミュニティの情報として分類しにくい思い出があるという点には不満が挙げられていた。しかし、これはシステムの弱点とも特徴とも捉えることができ、筆者らが予測していた通りの結果である。本システムでは、自伝的記憶の詳細な部分のエピソードは、計算機上に保存するのではなくあくまでもその人自身の頭の中に留めておき、それらの詳細なエピソードを語る際に本人が無意識的に振り返っている『当時の環境』を表現することこそが重要なポイントだと考えている(図 1 参照)。今回の評価結果では、システムがその特徴を実現しているということを確認できたに過ぎない。ただし、コミュニティの情報として分類しにくい思い出をライフストーリー上で表現する策を検討することは、今後の課題の1つだといえる。

4. 思い出コミュニケーション実験

ここでは、上記のシステム評価だけでは検証できなかった『思い出情報の他者への伝達』に対する yourStory の効果を評価するために実施した実験の結果を述べる。また、この結果から、思い出システムに重要な要素や、インタフェースで改善すべき点などについて考察する。

4.1. 実験方法

(被験者の条件)

- ◎ 共通の土地勘を持つ複数人で行う
- ◎ 被験者同士は面識がないこと
- ◎ 被験者には yourStory でライフストーリーを事前に構築しておいてもらう

(実験の手順)

- ① 参加者全員に簡単な自己紹介をしてもらう
- ② 各自、デスクトップや小型パソコンを使ってライフストーリーを語ってもらう
(別画面に『ゆかりの場所』周辺の地図を表示)
- ③ 自由にコミュニケーションを取ってもらう

なお、実験中の様子は筆者が観察を行った。また、各参加者の意見を取り入れる為、実験後にアンケートを記入してもらった。アンケートの質問は、以下の 4 つの項目に対する内容が主である。また、より幅広い意見を取り入れる為、アンケートの記入後、システムに対する感想や意見を自由に話し合いながら討論してもらった。

(アンケート内容)

- ◎ 実験は楽しかったか?
- ◎ 自分のライフストーリーを上手く語ることができたか?
- ◎ 他者のライフストーリーを聞いて、その人の経歴や特徴を良く理解できたか?
- ◎ システムに対する感想や意見

4.2. 実験の結果

上記の条件を満たすグループ(男性 2 名、女性 1 名の計 3 名)で実施した実験の結果、以下の表 2 のような結果を得た。

表 2. 思い出コミュニケーション実験の結果

	アンケート結果(詳細は含まず)				
	5	4	3	2	1
楽しさ	2人	0人	1人	0人	0人
語りやすさ	0人	2人	1人	0人	0人
他者の理解度	2人	1人	0人	0人	0人
感想&意見	yourStory を一緒に見ると、その人が今までどういう生活をしてきたかが分かった。面白かった。				
	知らない人に、いきなり自分の生い立ちから今までを話すということに戸惑った。人に見せるのは少し恥ずかしかった。				
	手に取って見れる小型のパソコンが欲しくなった。こういうものが家にあると楽しいと思う。				

4.3. 実験結果の考察

今回の実験の条件では、各被験者がお互いに面識のない状態から始め、実験終了後に他者の経歴や特徴などをどのくらい理解することができるのかを検証した。

アンケートの結果からは、今回の実験で用いた『yourStory+周辺地図の表示』という方法により、思い出コミュニケーションをスムーズにすることが可能だと実証できた。しかし、今回は共通の土地勘を持つ者同士で実験を行い、他者の活動フィールド(ゆかりの地)の理解に対する敷居を低く設定している。今後、今回とは違う幾つかの条件で実験をし、その条件と効果を照らし合わせながら、システムの利用場面などを多角的に検証していく必要があるだろう。

5. まとめ

本論文では、ライフストーリーを当時の環境という視点から閲覧できる思い出システムが高く評価できることを示した。現在、自分の記録を残すための思い出システムは、ブログや電子アルバムに代表されるような『日常記録型』のものが注目を集めているが、本システムのような『自伝記作成型』システムの検討は遅れをとっており、今後の発展が期待できる。本論文で示した yourStory は、その発展の過程にあるものだと考えている。

参考文献

- [1] 橋本克哉・仲谷善雄：コミュニティ情報をベースにした思い出管理システム、日本認知科学会第 23 回大会、pp. 434-435 (2006)
- [2] 佐藤浩一・榎洋一・下島裕美・堀内孝・越智啓太・太田信夫：自伝的記憶研究の理論と方法—日本認知科学会テクニカルレポート No. 51 (2004)
- [3] 佐藤浩一・越智啓太・神谷俊次・上原泉・川口潤・太田信夫：自伝的記憶研究の理論と方法 (2)—日本認知科学会テクニカルレポート No. 55 (2005)
- [4] 佐藤浩一・野村信威・遠藤由美・太田信夫・越智啓太・下島裕美：自伝的記憶研究の理論と方法 (3)—日本認知科学会テクニカルレポート No. 57 (2006)